

学校教育目標	人間尊重の精神を基盤として、新しい時代を創造するために、自らを意欲的に高める「心豊かなたくましい子ども」の育成を目指す。
--------	--

《本年度の重点目標》

《重点目標1》	知・徳・体の調和のとれた子どもの育成を推進する。
《重点目標2》	安全・安心な学校づくりを推進する。
《重点目標3》	家庭・地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度に向けた改善点
学力向上に関する取組	【授業改善】 ◇<児童質問紙(57)>「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加。	○「授業構想シート」を活用し、主題研究授業等を推進する。その際、以下の点を共通理解する。 ・「主体的・対話的な学び」には、必ず「話し合う活動」を位置付ける。 ・「まとめ」は児童の言葉で書くことができるようにしていく。 ・「振り返り」は視点を明確にして書かせるようにする。 ・話し合いの際には、思考ツールとしてホワイトボードを活用するなどの手立てを工夫する。	B	【授業改善】 ○<児童質問紙(57)>について、肯定的な回答をした児童の割合は増加した。 ○「学習の中で話し合い活動を通して、児童の考えを深めたり、広げたりする指導を充実させる」ということを共通理解して取り組むことができた。 ○グループでの話し合い活動を取り入れることにより、児童の発言が増え、学習に対する意欲が高まった。 ◆より思考が深まったり、広がったりする話し合い活動の仕方をさらに工夫していく。 ◆自分の言葉で「まとめ」「振り返り」を書く児童は増えてきたが、「めあて」と整合性がなかったり、「振り返り」が感想だけの児童もいた。
	【算数科での授業改善】 ◇<児童質問紙(36)>「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○本校主題研究では「算数科」を取り上げ、「わかる授業づくり5つのポイント」の質の向上を目指す。 ○「授業構想シート」を活用し、【追及する活動や働きかけ】では、必ず自分の考えを持つことができるように、個に応じた手立てを講じるようにする。 ○ノートの書き方のよい手本を示すなどして、よいノートの書き方を具体的に指導していく。	C	【算数科での授業改善】 ◆<児童質問紙(36)>について、肯定的な回答をした児童の割合は減少した。 ○児童の算数ノートのよい例について、共通理解を図ることができ、ノートのよい例は増えてきた。 ○授業の流れや考え方がわかる板書が分かりやすいノートにつながるという確認のもと、板書計画を大切に授業を展開することができた。 ◆よいノートが増えた半面、自分の考えをノートに表現できない児童もいる。自分の考えをもち、適切な方法で表現できるようにするための個に応じた手立てを工夫していく必要がある。
	【学力定着】 ◇<児童質問紙(14)>「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答した児童の割合の増加	○宿題の内容や量を全職員で共通理解し、毎日、国語・算数・自主学習を必ず出すようにする。 ○各学期始めに、児童・保護者へ「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習の大切さを訴える。また、学級懇談会や個人懇談会等を通じて、継続的に家庭学習の必要性を保護者に呼びかけるとともに、家庭学習について相談にのるなど、連携を密にする。 ○宿題の準備はスクールサポートスタッフを活用する。	B	【学力定着】 ○<児童質問紙(14)>について、「1時間以上している」と回答した児童の割合は増加した。 ○家庭学習の内容を学年で合わせることで、その日に行った学習の定着を図ることができた。 ○家庭学習において自主学習の内容を充実させることで、自主的に学習に取り組む児童が増えた。 ◆家庭学習の取り組みについて二極化が見られる。個別に支援が必要な児童に対しては、家庭学習も丁寧な支援が必要である。また、家庭への働きかけも工夫していきたい。
体力向上に関する取組	【授業改善】 ◇<児童質問紙(23)>「体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○体育主任(体育専科教員)を中心として、以下の点について全職員で共通理解を図り、授業実践を行う。 ・児童と学習計画を立て、見通しをもった学習を行うことで、児童に学び方を定着させる。 ・パワーアッププランに基づき、体育科学習における準備運動の充実や1単位時間での運動量の確保に努める。 ・授業の中で必ず「見合い」「教え合い」の場を設定し、児童同士の交流を促すようにする。	A	【授業改善】 ○<児童質問紙(23)>について、肯定的な回答をした児童の割合はとも増加した。 ○学習計画、教材、学習カード等の足跡を残すことで、児童に学び方が身に付いてきた。 ○専科指導により、グループでのジャンプアップ運動やホワイトボードを活用した作戦タイム等の位置づけにより、話し合う活動が活発に行われるようになった。 ○学習の中に必ず「見合う活動」「教え合う活動」を設定したことにより、児童同士の交流が活発に行われるようになった。 ◆専科指導だけでなく、他学年でも授業改善を進める必要がある。
	【運動習慣】 ◇<児童質問紙(1)>「運動やスポーツをすることは好きですか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○「平和ヶ丘」を活用した準備運動を工夫し、児童が昼休み等での外遊びでも積極的に「平和ヶ丘」で遊ぶことができるようにする。 ○縦割り活動で、1学期より継続的に「長なわとび」に取り組む。2学期には、「縦割り長なわとび大会」を開催する。 ○2学期末より、中休みに5分程度の「ランランタイム」を設定し、持久走に継続的に取り組み、3学期初めに「持久走記録会」を開催する。	A	【運動習慣】 ○<児童質問紙(1)>について、肯定的な回答をした児童の割合はとも増加した。 ○体育科で学習した内容を、昼休みの遊び(平和ヶ丘の利用)や児童会活動(長なわとび集会、ランランタイム)と関連させることにより、自主的に運動に親しむ態度が育ってきた。 ◆普段から運動に親しむ機会がもてるように、ボールやなわとび、一輪車等の運動をする環境の整備充実を一層図っていく。
心の育ちに関する取組	【自己肯定感】 ◇<児童質問紙(1)>「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○管理職の指導のもと、報告・連絡・相談を密にし、担任や担任外が共通理解を図りながら、児童に寄り添った指導を心がける。児童のよさを見出し、個に応じた支援を行うことで、自己肯定感を高めることができるようにする。 ○児童が自分で道徳的な価値を考え、議論する道徳科の創造を目指す。	C	【自己肯定感】 ◆<児童質問紙(1)>について、肯定的な回答をした児童の割合は減少した。 ○児童アンケート「『あったか言葉をふやそう』はがんばりましたか」について、肯定的な回答をした児童は80%を越えた。 ○「よいところ見つけ」や「教師の褒める・認める積極的な声かけ」を全職員で意識的に取り組むことで、児童は友達のよさを実感し、対人トラブルは少なくなった。 ◆児童が自分のよいところを実感できる教師の見取りと継続的な声かけを今後も行っていく。 ◆道徳科の学習として、一人一人が道徳的な価値に触れ、議論し合う学習の展開を目指し、授業改善を進めていく必要がある。
	【キャリア教育】 ◇<児童質問紙(3)>「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○総合的な学習の時間等でのキャリア教育において、各学年で身に付けさせたい力を明確にし、職業や将来の夢を考える学習を行う。 ○生活科や総合的な学習の時間等で、地域の方々の職業や行事、人材を生かした学習を展開する。	C	【キャリア教育】 ◆<児童質問紙(3)>について、肯定的な回答をした児童の割合は減少した。 ○「夢授業」では、社会で充実した働き方をしている職業人との交流を通して、児童一人一人が働くことの意義について考え、自分の将来や夢について関心をもつことができた。 ○職員アンケート「児童に将来の夢や目標をもたせるような指導をおこなった」について、肯定的な回答をした職員の割合は増えた。 ◆学年によって地域人材等の活用の仕方に差があるので、生活科や総合的な学習の時間等を中心に、地域の人、物、ことを計画的に活用できるような年間学習計画を立てたい。
安全・安心な学校づくりに関する取組	【人権教育】 ◇<児童質問紙(2)>「先生は、あなたのよいところを認めてくれたと思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○「学校生活アンケート」を全校で毎月実施し、いじめなどの児童の悩みの把握に努める。 ○「学校生活アンケート」等で気になる児童がいたら、すぐに担任による面談を行い、場合によっては保護者、SC、SSW等と連携しながら早期解決を図る。 ○人権教育研修年間計画に基づき、児童理解をはじめ、同和問題、LGBT等の様々な人権課題に対する認識を深めるための研修を行う。	B	【人権教育】 ○<児童質問紙(2)>について、肯定的な回答をした児童の割合は増加している。 ○児童アンケート「子どもたち一人一人のよいところを認めるように努めた」について、肯定的な回答をした職員の割合が高い。 ○「学校生活アンケート」を毎月実施することにより、児童の状況把握ができ支援が必要な児童には、適切に対応することができた。 ◆常に全職員が高いアンテナを張って、情報を収集し、情報交換や研修を通して児童が安全で安心して過ごせる居場所づくりに努めていく。
	【道徳・人権教育】 ◇<児童質問紙(5)>「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加	○いじめを未然に防止するため、児童相互の良好な人間関係づくりや学級での支持的風土の醸成を図るため、校内研修の一環として、「学級づくり実践交流会」を行う。 ○他人を思いやる心の育成に向け、道徳科の時間はもちろん、全教育活動を通じて、「みんなが楽しく過ごせる学校づくり」に取り組む。	B	【道徳・人権教育】 ○<児童質問紙(5)>について、肯定的な回答をした児童の割合は増加している。 ○職員アンケート「いじめを未然に防ぐための人間関係づくりや支持的風土の醸成を図った」について、肯定的な回答をした職員の割合が高い。 ○問題行動に対して、担任一人で抱え込むことなく、管理職に報告・連絡・相談をし、生徒指導主任や児童生徒支援加配を中心にして、組織的に問題解決にあたることができた。 ◆いじめに対する認識を職員で揃え、共通理解のもといじめの未然防止と早期発見、早期解決に取り組んでいくようにする。
開かれた学校づくりに関する取組	【保護者・地域との連携】 ◇<学校評価アンケート>「児童・保護者・地域との連携を深め、信頼と期待に応えるように努めた」について、肯定的な回答をした教職員の割合の増加 ◇<学校評価アンケート>「困難をかかえた子どもに寄り添った支援を行い、保護者との連携を図った」について、肯定的な回答をした教職員の割合の増加	○PTAや地域の見守りの方々と連携を図り、登下校時のあいさつ運動を行う。 ○学校通信、学年・学級通信、学校ホームページを通して情報発信を行う。 ○学校ホームページは毎月更新する。 ○学習参観や運動会、学習発表会、学校開放週間等を通して、学校教育活動の一端を公開し、学校教育へのご理解とご協力をお願いします。 ○特別な支援が必要な児童について、その保護者と連携を密にし、児童にとってよりよい教育環境を提供できるようにする。また、場合によっては適切な関係機関と連携し、児童の実態に応じた支援ができるようにしていく。	B	【保護者・地域との連携】 ○<学校評価アンケート>「児童・保護者・地域との連携を深め、信頼と期待に応えるように努めた」について、肯定的な回答をした教職員の割合は同程度である。 ○<学校評価アンケート>「困難をかかえた子どもに寄り添った支援を行い、保護者との連携を図った」について、肯定的な回答をした教職員の割合は同程度である。 ◆今後も特別な支援が必要な児童について、本人の困り感や保護者の困り感に寄り添い、場合によっては関係機関と連携し、適切な支援に努めていくとともに、特別支援教育についての啓発を進めていく必要がある。 ◆校区の地理的条件などから、地域との連携は活発に行うことは難しいが、今後も学校からの情報発信に努めるとともに、地域行事や会議などの機会を捉えて、積極的に交流を深めるようにしていく。